

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

# たっぷく だより

No. 20

編集発行 平成29年3月1日

田原福祉専門学校同窓会  
会長 松原 宣子



## 田原福祉専門学校 開校二十周年記念式典

田原福祉専門学校では、平成八年の開校以来、今年で二十周年を迎えたことを記念し、平成二十八年十一月二十六日（土）に開校二十周年記念式典を開催しました。

式典には、田原市長を始め、愛知県議会議員、田原市議会議員の皆様、関係施設の皆様、田原福祉専門学校



た方など、多くの方々をお招きしと  
り行われました。

式典は、創立者の田原市長山下政  
良様のあいさつから始まりました。  
あいさつでは、関係者への感謝、本  
校の特徴、市立の介護福祉士養成校  
の意義などを述べられました。

続いて、本年度より就任された、  
土平俊子校長のあいさつでは、学校  
の歴史とこれまでの実績などに触れ  
ながら「介護は利用者一人ひとりの  
一瞬、一日、人生を尊重し、安らぎ  
と笑顔を作り出し、自らの生きる意

味を学ぶことができる仕事。」「これ  
からも田原福祉専門学校が人と人が  
支えあう温かいまちの拠点、そして  
市民の学校として皆様のお力添えに  
より、共に育てていただきますよう、  
この場をお借りし、改めてお願い申  
し上げます」と述べられました。

続いて、本校に貢献していただ  
いた方々に感謝状を贈呈いたしまし  
た。贈呈者は、元校長 高松徹様、  
元校長 鈴木國家様、前校長 山田  
貴三様、元副校長・現非常勤講師  
小澤湛様、現非常勤講師 小野田雅



子様、現非常勤講師 山田康代様、  
元非常勤講師 阿部多恵子様、現非  
常勤講師 渡邊恵里様、現介護助手  
鈴木和子様、現学校評議会副会長  
古田勝美様、現同窓会相談役 林和  
彦様、現同窓会会長 松原宣子様、  
現学生寮管理人 廣田純子様以上の  
13名の方です。

贈呈式に続きまして、来賓の方を  
代表して、田原市議会議員 太田由  
紀夫様のご祝辞、続いて愛知県議会  
議員 山本浩史様からご祝辞を賜  
り、閉会となりました。



## 「さらなる介護の高みと

## 深さをめざして」

校長 土平 俊子



はじめまして、わたくしは、平成二八年四月一日より、四六年ぶりに生まれ育った渥美半島に戻り、創立二十周年という節目の年に校長職を拝命いたしました。

そして、瞬く間に一年が過ぎようとしています。正に、「光陰矢の如し」です。

昨年四月に満開の桜の花に迎えられ、まだ緊張気味の一年生と二年生・教職員全員で風に舞う桜の花の下で昼休みお花見交流会。

次は、総合体育館でのチーム対抗ソフトバレーにみんなで汗をかき、燃えた歓迎交流会。学校の庭には、沈丁花も香る春。

五月『風祭り』は、一・二年生が少しなじむ時期、熊本地震の応援として、「くまもん」の絵の大風作り

から、当日の参加者の皆さんとの楽しい風揚げ。

六月は、「くちなし」の花が、香り、紫陽花の花が優しい庭。

九月の『たはら祭り』は、汗まみれで踊り、帰りに学校の水道で水浴びをした。

頑張つて踊り切った後の二年生の笑顔。庭には、「金木犀」の香り。

十月は、土日にわたる『たつぷく祭』で、同窓会出店の、「おいしい薄味うどん」と「からだにやさしい甘くない大学芋」は、売り切れる人気商品でした。お茶会では、施設の皆さまの楽しそうな笑顔が、今も心に残っています。学校の庭には、「虫の声の合奏」で賑やかな夕暮れ。

一年生は十一月、初めての実習。二年生は、最終実習のスタートの月。朝、ふだんより二時間近く早く起きる実習は、卒業後、仕事に就くためには、たいへん貴重な早起き体験です。学校の裏庭の「紅葉」の鮮やかさと、珍しい見慣れない小鳥の訪れに癒される秋。

十月、実習が終わり、あつという間に除夜の鐘。一月は、一年生にとって二週間連続の実習で一歩ご利用者の生活に近づけたと思います。学校は、珍しく雪景色の庭も見ることができました。二年生は、集中講

義演習で、『医療ケア』。

二月、二年生は、全国の介護福祉士をめざす約七五〇〇人の学生と同日に受けた共通試験。

そして、二年生にとって思い出多き二年間が過ぎ、巣立ちの三月です。このように、田原福祉専門学校の一年間は、自然の木々の中、季節と共に学校行事が重なり過ぎていきます。

一期生の皆様は、ご卒業後十八年が過ぎようとしています。同窓の皆様は、この学校で学ばれたこと、友達との思い出など必ずおひとりおひとりのところに息づいておられることと思います。学生時代は、人生の中でも、様々な人との出会いや多くの体験が詰まっている貴重な時間です。

是非、時には、時計が見える白い校舎、「たつぷく」に「おいでん」。そして、若かりし学生時代に戻られ、後輩を励ましてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

さて、この学校で学ぶ、「介護の仕事」ですが、私の介護職の方との出会いは、一九八七（昭和六二）年、保健所保健師時代に、一人暮らしの難病の方の訪問からです。遡って一九五六（昭和三一）年に、長野県で「家庭養護婦派遣事業」として疾病

や傷害等のために家庭内で通常の家事業務を行うことが困難となった場合に、原則として一ヶ月以内の期間で臨時に雇用した家庭養護婦を派遣することから始まりました。これが介護の職業の発祥といわれています。

「介護」は、その方の二四時間、一週間、一か月の生活（生活活動）が安全・安心して過ごせるよう、「食事」「排泄」「清潔」「衣生活」「睡眠」「楽しみ」等のための環境と動作を考慮して支援する専門職です。

それに対し「看護」は、「食事」「排泄」「睡眠」「楽しみ」ができる健康状態（生命活動）を整えられるための医療的な支援によりその方とご家族の健康を支える役割です。

この両者に共通なことは、「人」と「自分」との関わりを通して技術と知識をもとに、その方の個性を尊重し、『生活と人生の伴走者』と考えます。

介護の仕事では、社会や家族を支援してこられた方々に、常に敬意を示し接することが基本となります。

「介護」も、他の仕事と同様に、「働かせてもらっている」という気持ちが大変かと思えます。

最後に、これからも、「介護の専門性」を皆さんと共に、高め、深め

ることを目指す取り組みをしていく所存です。どうぞ「たつぷく」のこれから先を、一緒に考えていただき、遠くから、近くから、見守り、支えていただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 介護職人として

同窓会副会長 西野優子



第一期入学、卒業生として地元でもある田原の地で介護の仕事に携わっています。入学時の桜咲く中で新しい校舎、年齢の違う同期生たちとの時間は今でも大切な思い出と仕事への意欲となっています。また、一期生は自分も含め、社会人からの入学者も多く、一般社会を経験してからの学生生活はとても楽しいものでした。

卒業後、意気揚々と就職しその後さまざまなご利用者様、ご家族様、

仕事仲間に社会勉強ともいえる生きざまを教えてくださいました。

就職した平成十年はまだ介護保険施行前で国家資格を持っていても社会的な地位はまだまだ低く、「お手伝いさん」「誰でもできる介護」の延長のような雰囲気でした。

平成十二年介護保険制度ができ、「措置」から「契約」へと変貌するなかで実際の介護の現場で感じたことは「介護」をプロフェッショナルの仕事にするのは、今それにかかわっている自分たちだ。」ということでした。孫ほど年の違う私たちに「お願いします。」と仰ってくださいるご利用者様が何を感じているのか？あかの他人の私たちに「自分の親なのに・・・。」と心からの言葉を聞かせてくれるご家族にどんな言葉をかけることができるのか？「介護のプロフェッショナル」としてどのようにかかわれば「いい仕事」と呼ばれるのかと考える日々でした。

介護保険制度ができたばかりのころは「介護保険には満期はあるのか？」「他人に家の中に入ってほしくない」「あのうちは国の世話になつとるらしい」など制度への理解のない言葉も多く聞きました。が徐々に制度への理解も進み、多くの方が介護保険という制度を使い自己実現

への一歩を歩まれていく中を共に歩ませていただきました。

どうしたら「介護」という仕事を価値のあるものと認めてもらえるかを考えていく中で一番に感じたことは「自覚を持つ」ということでした。自分自身が「介護」という職業のプロである。そう胸を張れるだけの知識と技術を持つ」ことをしっかりと認識して日々の業務に携わっているとご利用者様、ご家族から「相談」という形でお話しいただくことが増えていきました。自分にはない知識と技術を持つプロフェッショナルには年齢は関係なく、敬意を払って対応していただけることも増えていきました。

そんなふうには時間と手間をかけ、ご利用者様が、ご家族が、職場の風土が介護職人を育ててくださるのだと思います。

人と人がかかわる介護現場であるからこそ、やりがいの中で自分の成長を感じられることもあるでしょう。その積み重ねが「介護のプロフェッショナル」を形作るものだと思います。

二〇一五年での国の高齢化率は二六・七%でした。四人に一人は高齢者と言われています。四五年後の二〇六〇年には三九・九%と言われて

います。ほぼ二人に一人が六五歳以上という超高齢化社会がやってきます。その世界に住んでいるのはきつと、私たちです。自分たちの住むこの街を、高齢者になっても住みやすい快適な街にすることが地域包括ケアシステムの構築だと思っています。

度重なる制度の改正、新しい介護技術、ICT、介護ロボットなど著しい進化のある業界となった「介護」は情報戦でもあります。いかに正確な情報で先を読むかが重要視される今日の中で、柔軟性で吸収力の高い若手と経験豊富で知識のあるベテランが同じ立場である、同窓会という機会を積極的に使って自分の糧にしてほしいと思います。



## 開校二十周年記念公演

平成二八年十一月二六日(日)

「おどりと介護予防そして

介護専門職に期待すること!!」

講師：日本舞踊家

西川流総師 西川右近氏

本年度の公開講座は、開校二十周年を記念し、記念公演を開催しました。

講師は、日本舞踊西川流総師である西川右近氏をお招きし行われました。



講演では、まず参加者、特に広聴している学生への教訓として、ご自身が経験したボランティアでの失敗を紹介されました。

内容は、一九六五年にハワイで行われたさくらまつり(日系二世・三世の方が主催)に俳優の長谷川一夫さんが招かれ、西川先生と芸者の赤坂小梅さんと同行された際に、空き時間を利用し慰問に訪れた敬老ハウスでの出来事。

施設内には一五〇人ほどの日本人の方がいた。どこの出身なのかを尋ねても返事がなく、喜んでもらえると思いはりきって踊った踊りにも無反応。有名な俳優の長谷川一夫さんにも拍手も無い状態。その中で、芸者の赤坂小梅さんが三味線片手に各地区の民謡メドレーを歌い、広島の方の民謡になった時に、それまで無表情の方が涙を流された。その姿を見た時に、「自分はなんて愚かなのか。ボランティアなんてそう簡単にできるものではない」と気づかされた。それから、ボランティアで踊りを依頼されても、「私はできません。無料です。踊ることはできません。ボランティアは踊れません。」と断っている。ボランティアというのは、「自分の持っている技術をもってして相手の気持ちを引き上げて、ある



一定の楽しさを与えられることができること」がボランティアである。学生の皆さんもこれからボランティアという言葉がたくさん聞くことになると思いますが、簡単にボランティアという言葉を使ってほしくない。自分が参加した場合には、「本当にボランティアをしているのか、ボランティアとして役に立っているのか」を考えながら参加していただきたい、と述べられました。

続いて、ご自身の奥様の入所施設を土平さん(現校長)と探していた時のエピソードをお話しされました。

ある施設を見学に行った際に、土平さんが施設の職員に、「あなたの親が入所しなければならなかった時に、この施設に入所させますか？」

と尋ねたことがあった。とんでもないことを聞く人だなあと感じました。そして土平さんがじっと目を見ていると、その職員が目を背けた姿を見て、この施設はやめましょうということになった。その後、ある施設にお世話になり、現在は在宅で私が介護をしています。その時の土平さんの言葉が私の大きな支えになっています。田原福祉専門学校で学んでいる学生さんも、自分の親だったらどうしたいかを考えながら学び、良き介護者になってほしい。と述べられました。

続いて、NOS S(日本・踊り・スポーツ・サイエンスの略)の紹介をしていただきました。NOS Sとは、「おどりを使って、筋力の衰えを少しでも防ごう」という目的で、二〇〇七年に西川右近氏と中京大学体育学部長・湯浅影元教授との合同研究により考案された運動で、厚生労働省のモデル事業として全国5都市で実践されています。

はじめは、映像でNOS Sを考案したきっかけや、科学的データもちいてNOS Sの効果や動きを紹介していただきました。その後、参加者にNOS Sを体験していただきました。参加者は西川先生の指導のもと楽しんで体験していました。

## 第二回同窓生の集い

平成二八年十一月二六日(土)  
田原福祉専門学校 講堂

開校二十周年記念式典に合わせ、第二回同窓生の集いを開催しました。

今回は、これまで本校に携わっていただいた教職員の方にも声をかけ、十五名の方が参加していただきました。同窓生は一期生から十九期



生まで二四人が参加されました。

久しぶりに同窓生や先生方と会い、近況報告や昔話に花を咲かせたり、初めて会う同窓生と意見や情報交換をするなど、会は盛り上がり、とても有意義なものとなりました。

お子様連れの参加者もいて、終始和やかな雰囲気で行われました。

途中、参加された教員全員に一言あいさつをいただいたときは、昔のことを思い出し、参加者から笑いが絶えませんでした。

参加者からは、「久しぶりに先生

方に会えてうれしかった」、「いろいろな施設の状況や違いなどの情報交換ができてとても良かった」、「有意義な時間が過ごせました」、「楽しかった」、「参加者が少なくて残念」などの感想が寄せられました。

参加者に、同窓会や学校に期待することを尋ねると、「スキルアップ研修の開催」、「情報交換の機会の提供」、「みんなで楽しめる企画をして欲しい」、「多くの参加者を募ってほしい」、「また開催してほしい」などの意見が寄せられました。



これらの参加者からいただいたご意見や感想をもとに、次回開催に向け内容を検討し、さらに有意義なものにさせていきたいと思っております。また、スキルアップ研修なども計画し、卒業後も同窓生が集える場の提供を行っていきたいと思っております。多くの参加者をお待ちいたします。

## ● 同窓会行事 ●

### 同窓会総会

平成二八年度田原市立田原福祉専門  
学校同窓会総会を五月十五日(日)  
午前十時から、本校講堂で開催しま  
した。

総会では、提案された予算、決算、  
役員の選任などのすべてが承認され  
ました。

総会終了後は、毎年恒例となつて  
いる、たつぷく祭の模擬店で使用す  
るサツマイモの植え付けを行いました。  
地域の方の協力を得て順調に終  
えることができました。



### 収穫祭

十月二日(日)にサツマイモの収  
穫祭を行いました。今年は天候不順  
で事前の準備ができなかったため、  
当日の作業は大変でしたが、気持ち  
の良い汗をかきながら楽しく作業を  
終えることができました。終了後は  
参加者の慰労と地元の方への感謝を  
込めバーベキューを行い、楽しいひ  
と時を過ごしました。



## 携帯電話 (または自宅パソコン) のアドレス登録のお願い

学校行事・同窓会行事等につきまして田原福祉専門学校メール配信システムでご案内いたしますので、  
皆さまのメールアドレスを下記の方法で登録していただきますようお願いいたします。

一斉メール配信のシステムですが、卒業期別毎に登録できますので、同期会の開催通知を配信する場  
合など、ご連絡いただければ協力させていただきます。皆さん登録のうえ、是非ご活用ください。

### 【田原福祉専門学校メール配信システム登録方法】

①次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます)

宛先：tahara.tchs@fofa.jp

件名：(記述なし)

本文：(記述なし)

②登録案内メールが届きます。(案内に従って操作してください)

③完了メールが届きます。

※②の登録案内メールが届かない場合は、「fofa.jp」を受信許可ドメインに設定して下さい。



### 【田原福祉専門学校メール配信システム解除方法】

①次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます)

宛先：tahara.tchskaijo@fofa.jp

②解除完了メールが届きます。(案内に従って操作してください)



